

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	専門基礎特論		
担当教員	曾田 修治		
学年	3年	学科	救急救命
単位数	3単位	時間数	45時間
学習目標	国家試験及び卒業試験における専門基礎分野について対応できる。		
授業計画	1. 社会福祉学1 2. 社会福祉学2 3. 社会福祉学まとめ 4. 解剖生理学 1 5. 解剖生理学 2 6. 解剖生理学1・2まとめ 7. 解剖生理学 3 8. 解剖生理学 4 9. 解剖生理学3・4まとめ 10. 解剖生理学5 11. 解剖生理学6 12. 解剖生理学5・6まとめ 13. 解剖生理学7 14. 解剖生理学8 15. 解剖生理学9 18-47 52-152 16. 解剖生理学7.8.9まとめ 17. 薬理・検査1 18. 薬理・検査1 19. 薬理・検査2 20. 薬理・検査まとめ 21. 放射線障害 22. 放射線障害まとめ 23. まとめ、期末試験 190-204 825-833		
教科書	改訂11版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 18～47、52～152、154～187、190～204、825～833		
参考書			
評価方法	期末試験結果を主体とし、各回の確認テストの平均得点、出席状況、受講態度等により総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	救急医学概論特論		
担当教員	草賀 光博		
学年	3年	学科	救急救命
単位数	5単位	時間数	75(45)時間
学習目標	国家試験及び卒業試験における救急医学概論について対応できる。		
授業計画	16. ストレスに対するマネジメント 289-293 17. 観察総論 296-300 18. 全身観察① 301-308 19. 全身観察② 20. 局所観察① 309-319 21. 局所観察② 22. 局所観察③ 23. 神経所見の観察① 320-329 24. 神経所見の観察② 25. 緊急度・重症度判断 330-334 26. 中間・まとめ 27. 資器材による観察① 335-346 28. 資器材による観察② 29. 資器材による観察③ 30. 救急救命士が行う処置① 347-417 31. 救急救命士が行う処置② 32. 救急救命士が行う処置③ 33. 救急救命士が行う処置④ 34. 救急蘇生法 418-427 35. 在宅療法処置① 428-434 36. 在宅療法処置② 37. 救急搬送 435-452 38. まとめ・期末試験		
教科書	改訂11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)289-452		
参考書			
評価方法	期末試験結果を主体とし、各回の確認テストの平均得点、出席状況、受講態度等により総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	救急症候・病態生理学特論Ⅱ		
担当教員	松井 喜治		
学年	3年	学科	救急救命
単位数	3単位	時間数	45時間
学習目標	国家試験及び卒業試験における救急症候・病態生理学について対応できる。		
授業計画	1. 呼吸不全1 P454～457 2. 呼吸不全2 3. 心不全1 P458～462 4. 心不全2 5. ショック1 P463～469 6. ショック2 7. 前半まとめ 8. 重症脳障害1 P470～475 9. 重症脳障害2 10. 心停止1 P476～484 11. 心停止2 12. 意識障害 P486～490 13. 頭痛・痙攣 P491～501 14. 運動麻痺 P502～505 15. めまい P506～509 16. 呼吸困難・喀血 P510～517 17. 一過性意識消失と失神 P518～520 18. 胸痛・動悸 P521～527 19. 腹痛 P528～531 20. 吐血・下血 P532～534 21. 腰痛・背部痛 P535～537 22. 体温上昇 P538～542 23. まとめ、期末試験		
	教科書		
参考書	改訂11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)454-542		
評価方法	期末試験結果を主体とし、各回の確認テストの平均得点、出席状況、受講態度等により総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	疾病救急医学特論Ⅱ		
担当教員	草賀 光博		
学年	3年	学科	救急救命
単位数	3単位	時間数	45時間
学習目標	国家試験及び卒業試験における疾病救急医学について対応できる。		
授業計画	1. 神経系疾患1 544-556 14. 血液・免疫系疾患1 614-619 2. 神経系疾患2 15. 血液・免疫系疾患2 3. 呼吸系疾患1 557-565 16. 皮膚系疾患・感染症1 625-628 4. 呼吸系疾患2 17. 皮膚系疾患・感染症2 5. 循環系疾患1 566-584 18. 中間まとめ 6. 循環系疾患2 19. 小児・高齢者に特有な疾患 644-660 7. 消化系疾患1 585-594 20. 妊娠・分娩と救急疾患 661-675 8. 消化系疾患2 21. 精神障害 676-685 9. 前半まとめ 22. 後半まとめ 10. 泌尿・生殖器疾患1 595-601 23. まとめと期末試験 11. 泌尿・生殖器疾患2 12. 代謝・内分泌・栄養系疾患1 602-613 13. 代謝・内分泌・栄養系疾患2		
教科書	改訂11版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 544-619、625-685		
参考書			
評価方法	期末試験結果を主体とし、各回の確認テストの平均得点、出席状況、受講態度等により総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期																																																				
科目名	外傷救急医学特論																																																						
担当教員	山岸 英雄																																																						
学年	3年	学科	救急救命																																																				
単位数	3単位	時間数	45時間																																																				
学習目標	国家試験及び卒業試験における外傷救急領域について応用的思考により対応できる。																																																						
授業計画	<table> <tr> <td>1. 疫学・受傷機転</td><td>688-700</td> <td>14. 刺咬傷</td><td>778-782</td> </tr> <tr> <td>2. 病態生理</td><td>701-705</td> <td>15. 外傷まとめ</td><td></td> </tr> <tr> <td>3. 外傷の現場活動</td><td>706-711</td> <td>16. 中毒総論</td><td>784-791</td> </tr> <tr> <td>4. 頭部外傷</td><td>712-718</td> <td>17. 中毒各論</td><td>792-806</td> </tr> <tr> <td>5. 顔面・頸部外傷</td><td>719-723</td> <td>18. 異物・溺水</td><td>807-814</td> </tr> <tr> <td>6. 脊椎・脊髄外傷</td><td>724-729</td> <td>19. 熱中症</td><td>815-821</td> </tr> <tr> <td>7. 胸部外傷</td><td>730-735</td> <td>20. 偶発性低体温症</td><td>822-824</td> </tr> <tr> <td>8. 腹部外傷</td><td>736-739</td> <td>21. その他の環境障害</td><td>834-840</td> </tr> <tr> <td>9. 骨盤外傷・四肢外傷</td><td>740-751</td> <td>22. 中毒・環境障害まとめ</td><td></td> </tr> <tr> <td>10. 小児・高齢者・妊婦の外傷</td><td>752-756</td> <td>23. まとめ、期末試験</td><td></td> </tr> <tr> <td>11. 熱傷・化学損傷</td><td>757-768</td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>12. 電撃症・雷撃症</td><td>769-774</td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>13. 縊頸・絞頸</td><td>775-777</td><td></td><td></td> </tr> </table>			1. 疫学・受傷機転	688-700	14. 刺咬傷	778-782	2. 病態生理	701-705	15. 外傷まとめ		3. 外傷の現場活動	706-711	16. 中毒総論	784-791	4. 頭部外傷	712-718	17. 中毒各論	792-806	5. 顔面・頸部外傷	719-723	18. 異物・溺水	807-814	6. 脊椎・脊髄外傷	724-729	19. 熱中症	815-821	7. 胸部外傷	730-735	20. 偶発性低体温症	822-824	8. 腹部外傷	736-739	21. その他の環境障害	834-840	9. 骨盤外傷・四肢外傷	740-751	22. 中毒・環境障害まとめ		10. 小児・高齢者・妊婦の外傷	752-756	23. まとめ、期末試験		11. 熱傷・化学損傷	757-768			12. 電撃症・雷撃症	769-774			13. 縊頸・絞頸	775-777		
1. 疫学・受傷機転	688-700	14. 刺咬傷	778-782																																																				
2. 病態生理	701-705	15. 外傷まとめ																																																					
3. 外傷の現場活動	706-711	16. 中毒総論	784-791																																																				
4. 頭部外傷	712-718	17. 中毒各論	792-806																																																				
5. 顔面・頸部外傷	719-723	18. 異物・溺水	807-814																																																				
6. 脊椎・脊髄外傷	724-729	19. 熱中症	815-821																																																				
7. 胸部外傷	730-735	20. 偶発性低体温症	822-824																																																				
8. 腹部外傷	736-739	21. その他の環境障害	834-840																																																				
9. 骨盤外傷・四肢外傷	740-751	22. 中毒・環境障害まとめ																																																					
10. 小児・高齢者・妊婦の外傷	752-756	23. まとめ、期末試験																																																					
11. 熱傷・化学損傷	757-768																																																						
12. 電撃症・雷撃症	769-774																																																						
13. 縊頸・絞頸	775-777																																																						
教科書	改訂11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)688-782、778-840																																																						
参考書																																																							
評価方法	期末試験結果を主体とし、各回の確認テストの平均得点、出席状況、受講態度等により総合的に評価する。																																																						
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。																																																						

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	シミュレーション実習Ⅲ		
担当教員	曾田 修治 ・ 草賀 光博 ・ 山岸 英雄		
学年	3年	学科	救急救命
単位数	9単位	時間数	405(225)時間
学習目標	実践的な救急現場活動ができる。 国家試験及び卒業試験における状況設定問題に対応できる。		
授業計画	1 総合シミュレーション91 2 総合シミュレーション92 3 総合シミュレーション93 4 総合シミュレーション94 5 総合シミュレーション95 6 総合シミュレーション96 7 総合シミュレーション97 8 総合シミュレーション98 9 総合シミュレーション99 10 総合シミュレーション100 11 総合シミュレーション101 12 総合シミュレーション102 13 総合シミュレーション103 14 総合シミュレーション104 15 総合シミュレーション105 16 総合シミュレーション106 17 総合シミュレーション107 18 総合シミュレーション108 19 総合シミュレーション109 20 総合シミュレーション110 21 総合シミュレーション111 22 総合シミュレーション112 23 総合シミュレーション113 24 総合シミュレーション114 25 総合シミュレーション115 26 総合シミュレーション116 27 総合シミュレーション117 28 総合シミュレーション118 29 総合シミュレーション119 30 総合シミュレーション120 31 総合シミュレーション121 32 総合シミュレーション122 33 総合シミュレーション123 34 総合シミュレーション124 35 総合シミュレーション125 36 総合シミュレーション126 37 総合シミュレーション127 38 総合シミュレーション128 39 総合シミュレーション129 40 総合シミュレーション130 41 総合シミュレーション131 42 総合シミュレーション132 43 総合シミュレーション133 44 総合シミュレーション134 45 総合シミュレーション135 46 総合シミュレーション136		
教科書	改訂10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)		
参考書	国家試験問題集(状況設定問題)		
評価方法	効果測定 of 得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等により総合的に評価する。		
備考	授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 不適切な服装や髪型、毛染、ピアス、化粧等を認める場合、原則、欠席1とする。 「学生便覧」参照		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	シミュレーション実習Ⅲ		
担当教員	曾田 修治 ・ 草賀 光博 ・ 山岸 英雄		
学年	3年	学科	救急救命
単位数	9単位	時間数	405(225)時間
学習目標	実践的な救急現場活動ができる。 国家試験及び卒業試験における状況設定問題に対応できる。		
授業計画	69. 総合シミュレーション137 70. 総合シミュレーション138 71. 総合シミュレーション139 72. 総合シミュレーション140 73. 総合シミュレーション141 74. 総合シミュレーション142 75. 総合シミュレーション143 76. 総合シミュレーション144 77. 総合シミュレーション145 78. 総合シミュレーション146 79. 総合シミュレーション147 80. 総合シミュレーション148 81. 総合シミュレーション149 82. 総合シミュレーション150 83. 総合シミュレーション151 84. 総合シミュレーション152 85. 総合シミュレーション153 86. 総合シミュレーション154 87. 総合シミュレーション155 88. 総合シミュレーション156 89. 総合シミュレーション157 90. 総合シミュレーション158 91. 総合シミュレーション159 92. 総合シミュレーション160 93. 総合シミュレーション161 94. 総合シミュレーション162 95. 総合シミュレーション163 96. 総合シミュレーション164 97. 総合シミュレーション165 98. 総合シミュレーション166 99. 総合シミュレーション167 100. 総合シミュレーション168 101. 総合シミュレーション169 102. 総合シミュレーション170 103. 総合シミュレーション171 104. 総合シミュレーション172 105. 総合シミュレーション173 106. 総合シミュレーション174 107. 総合シミュレーション175 108. 総合シミュレーション176 109. 総合シミュレーション177 110. 総合シミュレーション178 111. 総合シミュレーション179 112. 総合シミュレーション180 113. まとめ・期末試験		
教科書	改訂10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)		
参考書	国家試験問題集(状況設定問題)		
評価方法	効果測定 of 得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等により総合的に評価する。		
備考	授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 不適切な服装や髪型、毛染、ピアス、化粧等を認める場合、原則、欠席1とする。 「学生便覧」参照		